

事業所における自己評価結果(公表)

【児童発達支援】

公表: 2024年 2月 1日

事業所名: 児童発達支援あんだんて

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○	法令で定められたスペースではあるが、活動によっては狭く感じることもある為、設備配置を工夫し環境を整えている。	活動の内容に応じて、指導訓練室の設備配置を変える等、工夫しながら安全なスペースを確保していきたい。
	2 職員の配置数は適切であるか	○		活動の内容や利用者の特性に応じて、職員配置を行っている。	より良い支援のための職員配置を心掛ける。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		見通しを持って過ごすことが出来るように、一日の流れを掲示したり、分かりやすく伝えるようにしている。動きを予測し、危険と感ずる場所や場面に必ず職員を配置するようにしている。	安心して安全に過ごせるように、危険と感ずる場所に分かりやすい表記をしたり、職員が介助を行ったりにしていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		触れる場所や玩具など、定期的に消毒を行い、衛生管理に配慮している。	活動や人数に合わせて、部屋の配置を変え、安全に活動できるようにしていく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		職員会議や、日ごとの振り返りの時間を活用し、情報共有を図るようにしている。	業務連絡ノートや、チャットを利用して効果的な業務改善を進める。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		アンケートや、口頭でいただいた意見は、職員間で共有している。	保護者の意向や意見を尊重し、より良い支援に繋がられるように改善に努めていく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		ホームページで公開している。	自己評価の結果はホームページで行う。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		今後人選を行い、外部評価につなげたい。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		外部研修に積極的に参加し、職員会議等で内容を共有できるようにしている。	研修の情報を収集し、興味のある研修や、必要な知識技術の向上の為の研修に、全職員が偏りなく参加できるように時間の確保をしていく。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		保護者へのアセスメント、事業所でのモニタリングを基に職員間で意見を出し合いながら、作成している。	担当者会議で得た情報や、サービス等利用計画書、アセスメント、モニタリングを反映させながら作成を行っている。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		アセスメントシートを活用し、保護者と共に状況を確認しながら支援計画の見直しを行っている。	今後も継続して取り組んでいく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		子どもの状況や課題、保護者の意向等を踏まえ、ガイドラインの項目ごとに支援内容を設定している。	今後も継続して取り組んでいく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		支援計画会議を行い、支援計画に基づいた支援が行えるように共通認識と理解を図り、支援に繋がられるようにしている。	今後も継続して取り組んでいく。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		毎月の活動計画は、職員間で案を出し合い決定している。	利用児の状況把握を行いながら、活動の内容と目的を職員全体で決定していく。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		季節感を感じられるような活動や行事を取り入れるなど、利用者の日々変化する状況を考え、偏りがないように工夫をしている。	運動、音楽、製作、言葉、数字、英語、生活遊びを取り入れたプログラムを行っている。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		一人ひとりの発達状況や、特性に応じて、個別活動と、集団活動を組み合わせている。	個に応じた、より良い支援が行われよう個別と集団をバランスよく取り入れる。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		その日の活動のリーダーを中心に、職員の配置や動きの確認、注意事項を話し合っている。	リーダーは月の活動計画後に話し合いにて決定し、役割分担しながら、各自が責任を持って取り組んでいく。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		活動中の、気付いた点や反省すべき点の振り返りを行っている。	細かく意見を出し合い、気付いたことを話し合う時間を設けるようにする。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		ケース記録に細かく記入し、支援の改善に繋がられるようにしている。	利用児の様子をよく観察したうえで、支援の改善のために役立てられるような効率のよい記入を心掛ける。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		定期的なモニタリングを行っている。また、保護者からの要望を受けて、不定期で面談を行うなどの対応を行っている。	今後も継続して取り組んでいく。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		児童発達管理責任者や、利用児の担当職員が参画している。	サービス担当者会議に参加し、知り得た情報を計画や支援に活かしていけるようにしていく。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		子育て支援の研修に参加し、保健所や保健師と連携を図るようにしている。	今後も継続して取り組んでいく。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか		○	対象児はいない。	今後、受け入れ希望があった場合は、慎重に検討することとする。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか		○	対象児はいない。	今後、受け入れ希望があった場合は、慎重に検討することとする。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		必要に応じて、事業所での様子を見学していただいたり、保育園や幼稚園に伺い情報共有したりしている。	今後も積極的に取り組む。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		移行支援シートを作成し、情報提供を行うようにしている。	保護者の意向を伺いながら、移行先との連携を図り、情報共有や、相互理解が図れるようにしていきたい。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		研修に参加する等、連携を図っている。	今後も継続して取り組んでいく。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○		活動としての交流の機会は設けていないが、利用者より要望があれば取り入れていきたい。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○			子育て支援ネットワーク会議には参加しているが、自立支援協議会への参加はしたことがない。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		送迎時に様子を伺ったり、当日の活動の様子を伝えたりして、共通理解の元、統一した対応ができるようにしている。	送迎時の伝達や連絡帳を活用し、保護者との情報共有に努めていく。
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか		○		今後、家庭での対応に活かしていただけるよう、保護者向けのセミナー等を計画したい。	
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時に、利用契約書や重要事項説明書を通して詳しく説明を行っている。	利用者目線に立ち、丁寧にわかりやすい説明を心掛ける。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		ガイドラインに即し適切な計画を作成したうえで、保護者へ詳しく説明を行い、同意を得ている。	今後も継続して取り組んでいく。
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		親子療育の際や相談があった時等に、対応の仕方などの実践を見たいたり、一緒に支援の方法を検討したりしている。	保護者の思いや悩みに寄り添い、相談しやすい雰囲気作りに努める。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		日を設けて保護者会の開催は行っていないが、親子療育での活動を通し、活発な交流が持たれている。	今後も親しみやすい雰囲気の下、交流が行えるように配慮する。
	36 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		マニュアルについては、契約時に説明をし、事業所内に掲示している。また、意見箱を設置している。	相談や申し入れについては、迅速な対応を心掛ける。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		毎月、活動の予定表を配布している。事業所外の活動など通常の活動以外は、詳細を説明したプリントを配布している。	連絡帳を活用し、活動の様子を写真を個人ごとに貼るなど、情報の共有を図っていく。
	38 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		契約時に個人情報同意書を通して説明を行い、同意を得たうえで、取り扱いには注意している。	今後も個人情報の取り扱いには十分注意していく。
	39 障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		活動の見通しが持てるように、ホワイトボードに絵カードを掲示するなど配慮をしている。	利用児の特性に応じた方法や道具を用いるなど、個々に応じて工夫をする。
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		事業所の設備や広さの状況から難しい面もあるが、出来ることを検討していきたい。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	<input type="radio"/>		保護者にも避難訓練に参加していただくなど、訓練を実施している。マニュアルは掲示している。	改善点を検討し、新たにマニュアル等を作成中である。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	<input type="radio"/>		消防署に見学に行き、消防署の方に説明をしていただいた。マニュアルは掲示している。	様々な災害を想定し、避難の方法について職員間で共通認識を持ち、今後も定期的に訓練を行っていく。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	<input type="radio"/>		事前に聞き取りを行っている。	職員間でも共通認識を持ち、対応する。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		<input type="radio"/>	対象児はいない。	対象児がいる場合、職員間で共通認識を持ち、注意を払いながら対応する。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	<input type="radio"/>		ヒヤリハット報告書を作成し、大きなけがに繋がらないように、職員間で共有している。	事例発生があった際には、同じことが起きないように職員間で協議し安全対策を図る。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	<input type="radio"/>		虐待防止について、研修冊子を基に勉強会を行い、共通認識を持つようになっている。	今後も継続して取り組む。
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		<input type="radio"/>	契約時に説明を行っている。	身体拘束の可能性がある受け入れがあった場合、十分な説明と同意を得て、支援計画書に記載することとする。

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

○ 「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。(該当する方に○を記入)